

正常新生児の体重推移と1カ月時の確立栄養

(分担研究：新生児・乳児の栄養管理に関する研究)

研究協力者 南部 春生

共同研究者 沢田 博行 太田八千雄 篠原 望

駒木 智 中江 淳

見出し語：正常新生児、体重推移、確立栄養

研究目的：新生児、未熟児を母乳で育てる考えが定着し、多くの施設で実践され、良好な発育発達が期待されている。ここでは正常新生児について、改めて生後1カ月までの体重推移、退院時1回哺乳量、1カ月時の確立栄養を知り、病児・未熟児栄養をすゝめるに当たっての基礎資料を作製することを目的とした。

研究対象：昭和62年に出生した健康新生児を対象とした。当院の出生数は年間1500人、2500g以下の低出生体重児は6.2%、巨大児は2.2%である。ここで云う正常新生児とは、1)完全母乳栄養を生後6時間前後で開始し、14日間は持続する、2)母親は健康で生後12カ月間の精神運動発達が正常であり、3)この間入院する疾患にかかっていない等をもって定義した。その対象となった児は男児402名、女児432名の計834名であった。なお対照新生児として低体重児(2200~2499g)、巨大児、帝王切開児、混合栄養児(他院で出生)、妊娠中毒症児を選び比較検討した。

研究成績：

1) 出生体重(群)別体重推移(図1)

男女とも出生体重、出生順位に関係なく、生理的体重減少は6%・3-4日、第6生日退院時の1回平均哺乳量は60ml、1カ月時の1日体重増加は40~45gで男児が女児を上廻った。

2) 対照群の体重推移(図2)

男女を区別せずに検討した。生理的体重減少は低体重児8.0%・4.3日、巨大児5.5%・4.4日と低体重児で有意な減少を示し、帝切児は8.1%・6.7日と減少率は高く、混合栄養児は3.3%・2.3日と低く、早い体重回復を示した。

3) 出生体重への回復

完全母乳、第6生日退院時でC群の回復率が低く、A群男児17%、女児は男児のそれを常に下廻った。

4) 生後1カ月時の1日体重増加

男女ともに30~50gの体重増加を示し、中でも40~50gに集中していた。

5) 1カ月時の母乳確立(表1)

いずれの体重群も70~80%以上が母乳で確

立し、とりわけ第2子の確立頻度が高かった。正常新生児の母乳確立は78.3%、混合19.1%、人工3.6%である。また高年初産婦のそれは母乳70.9%、混合24.5%、人工4.6%とやや低く、また体重の低い群で確立は高率だった。

6) 対照群における検討

いづれの群も1日体重増加は30g以上であったが、低体重児では30g以下が17.6%を占めていた。また母乳確立は混合栄養児34.8%と低く、低体重児は54.9%、帝切児71.9%、巨大児は91.7%と高率であった。

まとめ: 以上の成績から考察を行った結果、

1) 生理的体重減少は正常新生児 6%・3-4

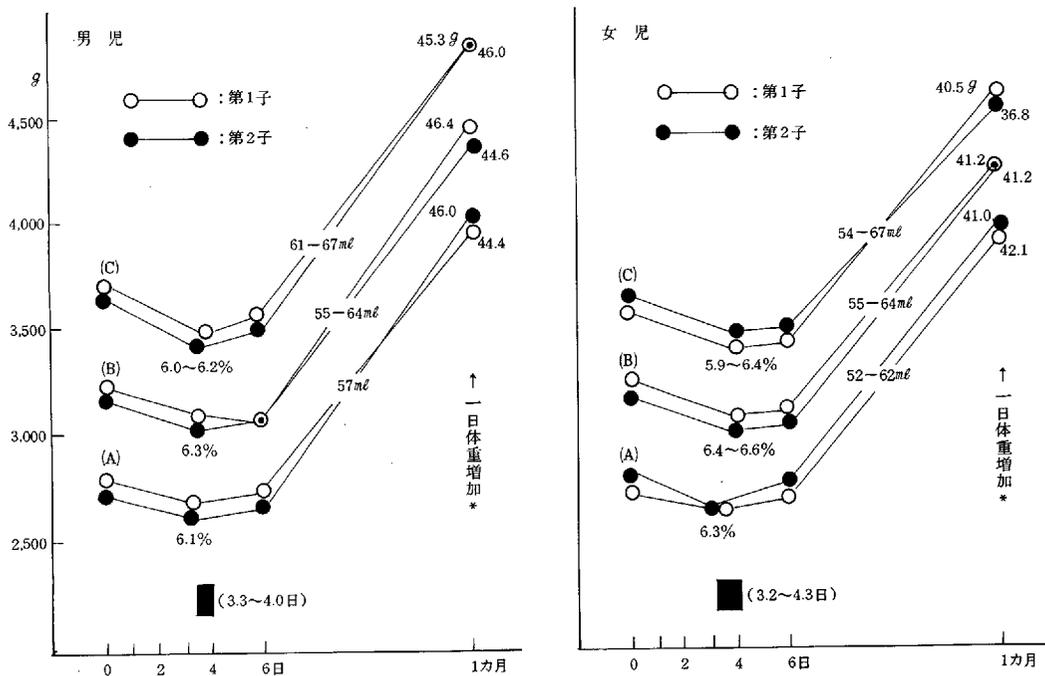
日、混合栄養児は3%・2日と有意差があった。

2) 出生後早期から14日間は完全母乳栄養に徹する指示で、1カ月時の体重増加は1日40~50gと充分な発育が期待され、母乳確立は70~80%と高率が得られた。

3) 種々の不安を訴える母親、体重不安、母乳不安を訴える母親に対しては「母乳のすゝめ」指導よりは「母と子の生活」指導をすゝめることがより重要である。

4) 今回の成績を基礎に、今後は病的新生児、先天性心疾患児、未熟児・超未熟児の体重推移、在宅栄養管理のあり方について検討をすゝめる予定である。

図1 出生体重群別体重推移(1カ月迄)





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的:新生児、未熟児を母乳で育てる考えが定着し、多くの施設で実践され、良好な発育発達が期待されている。ここでは正常新生児について、改めて生後1ヵ月までの体重推移、退院時1回哺乳量、1ヵ月時の確立栄養を知り、病児・未熟児栄養をすすめるに当たっての基礎資料を作製することを目的とした。